

「独立」とは「生産手段の私有」を含むが、これは、交易圏の拡大と需要の拡大によって独立できた。多くの人間が必要とするから、権力に干渉されずに生産できる。このことは、  
5 需要の拡大を可能とする生産力の増大による交換のための穀物または土地という生産手段を使つた農作物が、支配者の下部にまづまたは農民にまづ残つてゐることを必要とする。

6. しかしながら、ここまでの時代はやはり穀物生産の比重が圧倒的であり、ほとんどの人間は穀物生産に従事してゐる。それはとりもなおさず、土地を離れて生活することができないということであり、それゆゑ、土地を支配してゐるものがこの時代の生活を支配  
10 してゐるものであるということである。本格的な多元的生産様式への移行は、次の市場機構の作動による農民の新たな生産物の生産への強制的移行によって始まる。

さらなる穀物の過剰生産の中で、交換における市場機構が作動し穀物の交換価値が低下

してくる。それにより、穀物を財政基盤とする領主たちは困窮していく。と同時に農民も困窮していく。そして領主たちの実質的地位が低下し、新たな生産手段の所有者の地位が向上してくる。これに対する領主たちの政治的対応はさまざまである。日本の江戸時代のように農民を身分制（この身分制は前に書いた支配階級内部の身分制とは違う。新たな生産手段の所有者の伸張の中での全人民に対するもの。）で土地に縛りつけることによって農耕社会を維持しようとしたり、ギリシアの一部の貴族のように土地を囲い込み新たな生産地であるところの牧羊を始めたり等である。

そして、穀物だけでは領主は家臣を養うことができなくなる。つまり、権力構造を維持できなくなる。

このようにして、領主が全体的に没落していく中で、（しかし、ブルジョアがとってかわるほどではない）領主の中でもっとも強い者（君主等）が支配を強めていく。（絶対

主義の時代)しかし、次第にブルジョア(新たな生産手段の所有者)の力が強くなる中で君主はそれに同化せざるを得ない。もし同化しなければ、ブルジョア革命と呼ばれるものが起こる。ただ交換経済の影響を受けて困難が続いている農民の参加が、ある程度、革命の性格を規定していく。例えば、フランス革命は特徴的である。

## 10 [第5章] 歴史の変化とその

自由放任主義経済以降第二次世界大戦までの経済、それは農業、特に穀物の生産力の増大による工業への移行の時期であった。そして、穀物及び土地という生産手段を使った農作物の生産から別の新たな商品の生産への、移行の導かれ、これがこの時代の変化を引き起こしていく。以下に、いくつかの例を見てみよう。

1. 世界恐慌: 1929年10月、アメリカの株式相場の暴落から始まる世界大恐慌の1年前、

1928年末において、東ヨーロッパ、カナダ、オーストラリア、中南米、アジア諸国で農業恐慌が起こっている。アメリカにおいても、1929年の夏に農産物価格の低落が起こっている。このような農産物の過剰生産による農業恐慌の上に、需要の減退による工業部門の恐慌が重なって生じたのが世界大恐慌である。世界的な農産物過剰、それに従事している人間の過剰の中で、新たな商品の生産へと移っていかねばならぬのだが、その移るべき工業部門において恐慌が起ったことにより、まったく不況解決の道が閉ざされてしまったのである。

る。フシズム：この時代の貧困、それがフシズムを起して行く。フシズムは最初、イタリア、ポーランド、ユーゴスラヴィア等の後進農業国において発生する。そして、ドイツでも発生した。また、日本においても農本主義とフシズムの関係はよく知られている。自らが受けている体制の矛盾、その原

因、解決の方向が見出せなかった層、それが  
 フォシズムの民衆の中の支持なのである。従  
 って、フォシズムとは、体制矛盾の中で、体  
 制内変革または体制自体の変革の道が見出せ  
 ない層に、自我の共闘が起こり、それが民族  
 のエゴへと変化したものと定義することがで  
 きるだろう。例えば、ドイツにおいては、社  
 会民主党さえその矛盾の解決の方向をはっきり  
 と明示できなかった。日本においては、社  
 会主義者と実業主義者の間での論争の中で、  
 現状規定、解決の方向を見出せなかったの  
 である。

3、社会主義革命（後進国移行期革命）：  
 資本主義の矛盾を最初に感じたのは、農耕社  
 会が崩れていく過程における農民であった。  
 自らの生産する穀物が過剰生産状態にある（  
 または交換の相手側においてすでに満たされ  
 ている）ためにその交換価値が低い。故に他  
 の人々（市民）と同じような生活をしようと  
 するならば困窮せざるを得ない。（相対的貧

困意識)として彼らは、金融資本家(地主・有力農民・市民等)に何等かの生活の糧のかわりに土地を手離し、小作へ転落していった。

口三三、中国で社会主義革命が起った原因は、上述のような状況の中に、生産性の高い生産手段またはそれによる商品が導入されたことによる。それによりその後進国内部に芽生えつつあった生産手段が、新たに導入された生産手段またはそれによる商品によって完全に破壊される。そして、その生産性が高いため就職できなくなる。(例、中国植民地化以前に、綿織物業は家内制手工業、マニラ・フィリピンで発達していった。そこへイギリスにより生産性の高い綿製品が持ち込まれた。最初のうちは利潤、労働報酬を削ぎ、これに抵抗できていたが、結局抵抗しきれず破壊されていった。)また、多数の農民も穀物の交換価値が低いため困窮していった。これらにより大量の失業者がそこに存在し、地主・資本家の徹底的な搾取を受けた。

以上の様な状況の中で起ったのが、団塊  
 しつつある農民、搾取されていったプロレタリ  
 了及び小作人、失業者による、「市場経済に  
 による農耕社会から多元的生産様式への移行」  
 5 ではなく、「計画経済による農耕社会から多  
 元的生産様式への移行（後進国移行期、革命）」  
 である。

## 〔第6章〕 経済モデル

### 1. 基本的な考え方

自由放任主義交換経済とは何かをものか  
 を考えるために、簡単な経済モデルを構成す  
 る。ただし、定量的モデルではなく定性的モ  
 デルである。そこでは、生産空間と消費空間  
 15 というものを考える。消費空間においては、  
 効用理論を使う。生産空間においては、労働  
 の量を基本に置きながら賃金の問題も考慮する。  
 自由放任主義交換経済の発展を生産空間と消  
 費空間の交差により特徴づける。

### 2. 生産・消費サイクル

著者 泉 宏明

住所 〒739-0145 広島県東広島市八本松町宗吉 92-5

HomePage

[http://www7a.biglobe.ne.jp/~popuri\\_art/izumi/](http://www7a.biglobe.ne.jp/~popuri_art/izumi/)

copyright©2012 泉宏明 all rights reserved.